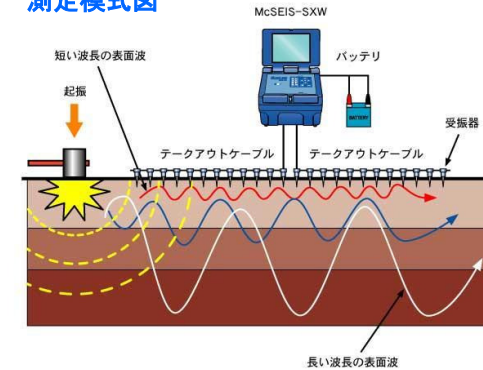


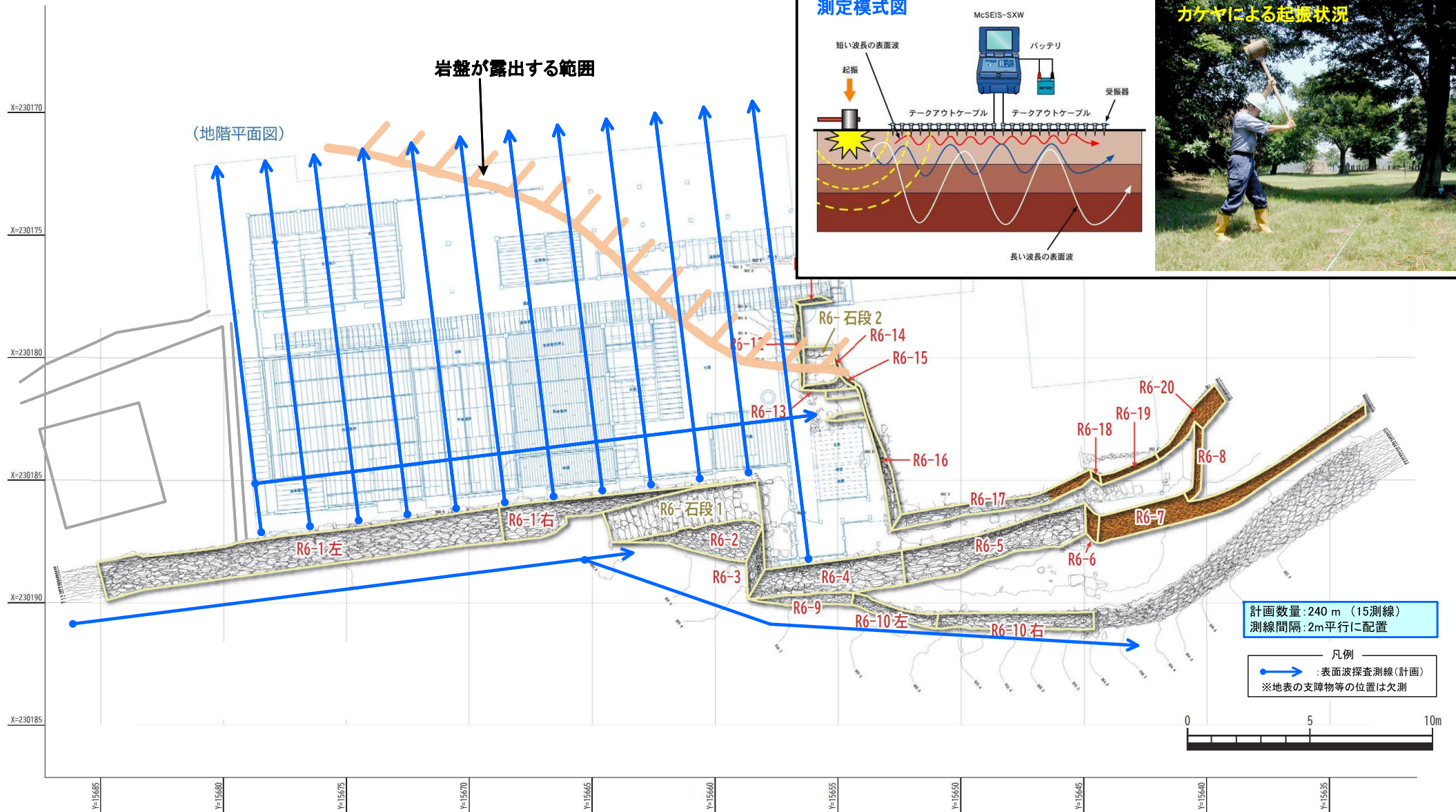
表面波探査は、カケヤで地表面を打振して発生させた弾性波を測線上に展開した受振器で測定し、その弾性波の伝播特性を解析して、地盤のS波速度構造断面を求める探査手法。
S波速度構造は地盤の硬さ・軟らかさを断面として示すため、建築物が立地する基礎地盤の評価に用いる。

測定模式図



岩盤が露出する範囲

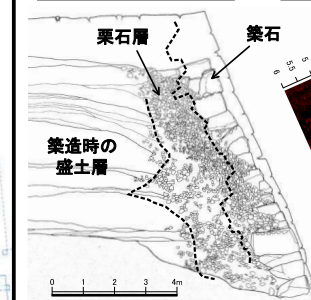
(地階平面図)



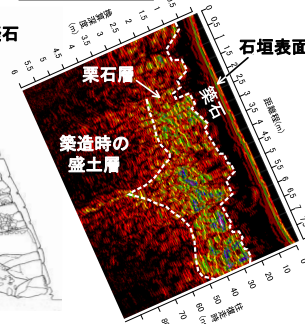
石垣レーダ探査では「連続測定」と「個別測定」を計画。連続測定では、測線上にアンテナを牽引し、石垣背面の構造を連続的に推定する。個別測定では、測線上の築石に対して一石づつ控え長を計測する。

連続測定

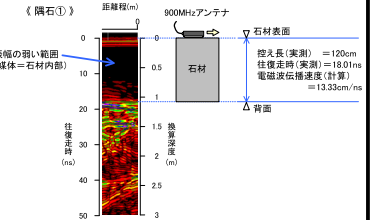
発掘調査結果(断面図)



レーダ探査記録

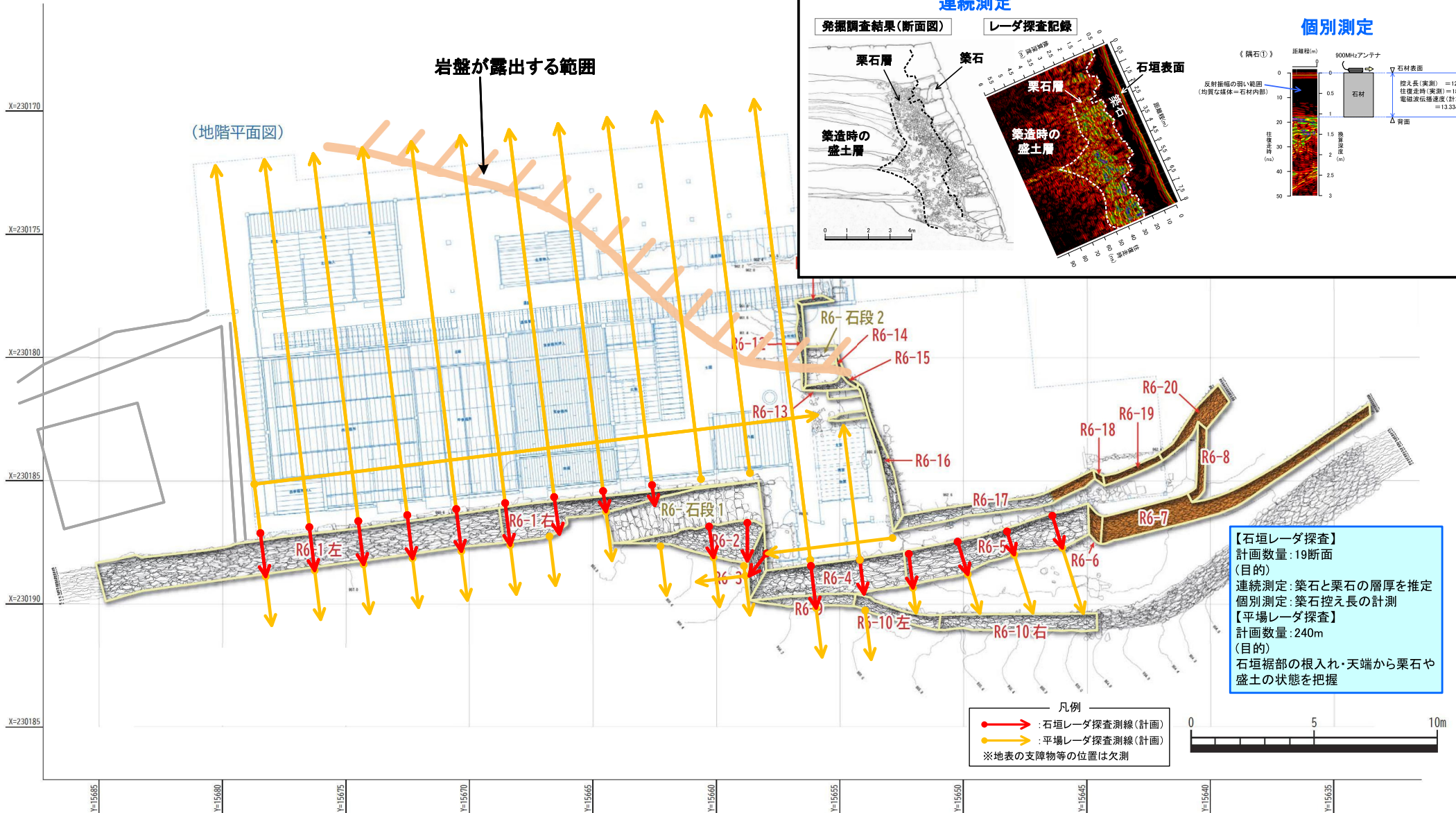


個別測定



岩盤が露出する範囲

(地階平面図)



【石垣レーダ探査】
計画数量：19断面
(目的)
連続測定：築石と栗石の層厚を推定
個別測定：築石控え長の計測
【平場レーダ探査】
計画数量：240m
(目的)
石垣裾部の根入れ・天端から栗石や盛土の状態を把握

凡例

- 石垣レーダ探査測線(計画)
 - 平場レーダ探査測線(計画)
- ※地表面の支障物等の位置は欠測